

私たちも多くを学ばせていただいた

稲垣 学 和泉市土木下水道部道路河川課

和泉市では、平成 14 年度から継続して「交通・環境学習」に取り組み、平成 18 年度までに延べ 8 校で実施している。

この取り組みに際しては、行政団体、学識経験者や交通事業者など多くの方々の協力をいただいて、小学校の先生方と授業計画や教材について多くの時間を費やして議論しながら進めてきた。たとえば、まだ自らクルマを使用することのない子どもたちに、ある意味クルマに親しみを持たせ、実感させるのは難しい。ワークシートだけや講義だけでは実感は湧かないので、参加・体験型の授業を主体として、子どもたちが喜んで取り組むことを常に考えながら実施してきた。

「空気調査」や「クルマ大集合」では実際に手に触れ、肌を感じることができ、子どもたちの目は輝いていた。

空気調査では学校外に出れてふざけているのかと思いきや、実際に現場に行き、自分で空気がきれいと思えるところに設置し、クルマが多いところと比べたところ、あまり違いのない結果が出てきた時、子どもは何故かと問われると、「その裏手に広い道があるため、クルマの排気ガスが流れてきている。」・・・よく気づいたなと感心し、ふざけていると疑った自分に反省・・・。

子どもたちはこの学習や環境について興味を持ち、調べたことを自分なりにまとめ、発表会では保護者を交え、劇やビデオなどで発表した。非常に内容も詳しく、また誇らしげにしっかりと口調で教えてくれる。「一つのことに関心を持つととことんやる。」と先生は言っていた。すごい！。学習終了後も家庭において、塾へのクルマ送迎を控えたり、家庭においても節電等の環境にやさしい行動を続けている子どももいる。家族といっしょに取り組めたのは、非常に良かったと考えている。

ただ一つ思ったのは、この子どもたちが実際に運転手となるのは、少なくとも 6 年以上先。そのときまで、このプログラムで感じたことや調べたことをいつまでも心にうけとめていられるか・・・。このプログラムをきっかけとして、繰り返し伝えていくことが大切だと感じている。

クルマは便利な乗り物であり、私たちの生活に必要なものとなっている。しかし、環境悪化や交通事故等の問題も引き起こす。これからも「かしこいクルマの使い方」に取り組んでいくことは大きな課題であると考えている。

